

はじめに

長引く不況とそれに伴う就職難、また就職をしても会社の倒産やリストラの不安にさらされる中、少子化の影響もあり、正社員として就労しなくてもとりあえずは保護者の下で何とかなる現状などにより、生徒には進学の意味がわかりにくくなり、就労の意欲が持てないでいる。

生徒に明るい希望と望ましい勤労観を持たせ、それを進路選択につなげていくためには、いままでの学校内にとどまった進路指導だけではなく、実際の社会の中で、「しごと」を体験し、それを通して自分自身を見つめなおすことが必要と考えられる。こうしたことは以前より普通科以外の高校では実施されてきたが、普通科高校においては例がなかった。そこで、普通科高校で就業体験を実施するにあたっての運営方法と生徒に与える効果を探ってみた。

1 研究テーマ及び重点事項

(1) 研究テーマ

普通科高校における就業体験学習のあり方と運営方法、望ましい勤労観・職業観の育成に対する効果を探る

(2) 重点事項

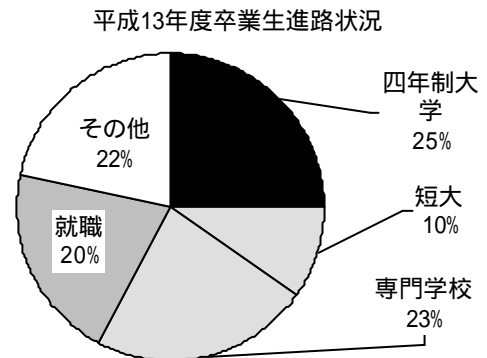
望ましい勤労観・職業観を身につけさせ、実社会に対応できる職業人の育成を目指すとともに、進路意識を高め、進路決定に役立てる。実習先での勤労体験学習を通し、高校生としての生き方、あり方を問い直し、豊かな適応力を備えた人材の育成を目指す。

2 学校の概要等

(1) 学校の状況

平成 14 年度で創立 23 年目を迎える全日制の普通科高校である。生徒数は、1 学年 247 名、2 学年 221 名、3 学年 247 名で、合計 720 名が在学している。平成 13 年度は卒業生の 25.0% が四年制大学へ、9.6% が短期大学へ、23.3% が専門学校へ進学し、20.4% が就職した。そして残り 21.7% が浪人・無業者を含む進路先未定者であった。ここ数年で短期大学進学者・就職者が減少し、四年制大学への進学者が大幅に増えている。

高校卒業後は無業者でもよいと考えている生徒は少なく、進学・就職のいずれを希望する生徒であっても、多くは「何かやりたいこと」を見つめたいと考えている。これに対し、ホームルームで資料を使っての職業研究や上級学校研究をおこなったり、講師を招いての実習体験や説明会を開いている。



学習面では、進学を希望する生徒に対する夏休みの進学合宿や放課後の補習、会議室を学習室として開放するなどの支援をおこなっている。また、基礎学力に不安のある生徒も少なくないが、成績不振者に対して、自分の学習状況や生活状況を見つめなおすためのワークシート(再出発シート)を用意して指導をおこなっている。

平成 14 年度 進路希望調査結果(4 月) (数値は学年ごとの百分率)

| 学年 | 四年制大学 | 短期大学 | 専門学校等 | 就職 | その他 |
|-----|-------|------|-------|------|------|
| 1 年 | 21.1 | 11.3 | 44.9 | 20.6 | 2.0 |
| 2 年 | 19.0 | 7.2 | 32.1 | 20.8 | 20.8 |
| 3 年 | 31.0 | 6.7 | 26.2 | 23.8 | 12.3 |

(2) 地域の概要

幸手市は茨城県五霞町や千葉県関宿町と接する埼玉県の東部北側に位置する。日光街道の宿場町として栄え、現在は首都圏近郊の住宅都市として発展している。東武日光線幸手市駅周辺には商業地域が、郊外には工業団地と農村部が広がっている。本校はその幸手市の南部に位置し、市内唯一の普通科県立高校として地域住民の期待を受け昭和 55 年に設立された。

3 実施計画

| | |
|--------------------|--|
| 平成 14 年 度 | 実施概要の検討(進路指導部) 実施概要の決定 実施学年.....第一、三学年 対 象.....希望者 実施時期.....平成 14 年 9 月 10 日・11 日 参加生徒の募集 受入先事業所の確定 郊外行事承認願の提出 参加生徒への事前指導 受入先事業所との打ち合わせ 職場体験の実施 報告書の作成 ホームページの作成 |
|--------------------|--|

4 組織、活動の内容及び成果と課題

(1) 組織について

ア 職員組織

初めての試みということもあって、進路指導部と管理職で実施概要の検討から報告書の作成までをおこなった。ホームページの作成にあたっては、マルチメディア部顧問の協力を仰いでいる。今後、規模を拡大しながら継続して実施していくにあたっては、学年主任と学年の担当教員、教務主任を加えていく必要がある。

イ 生徒組織

参加生徒数が 10 名(各事業所 2 ~ 4 名)ということもあって、生徒の中に特別な組織は設けず進路指導部が行った。

(2)活動内容について

他校で実施された事例や中学校での活動例を参考に、実施概要を検討した。実習先は、卒業生が勤務している企業、本校生が通っていた幼稚園、日頃からボランティア活動で協力をいただいている介護施設というように本校とかかわりがあり実習終了後に学校に戻る距離の事業所に依頼し引き受けていただいた。そして事業所の担当者、本校職員、参加生徒の三者で詳細に事前打合せを行って職場体験学習当日に臨んだ。そのほか、生徒に対して自己紹介カードの作成などの事前指導と実習後の報告書の作成指導をおこなった。

(3)活動の成果と課題について

生徒に対する指導も受入先事業所に対する折衝等も進路指導部が主体でおこなってきたが、職場体験学習をするにあたっての全体像が把握できた点はよかった。しかし、今後規模を拡大する場合には、担当する職員の人員を検討し、生徒に対する事前・事後の指導担当と事業所との調整・打合せ担当、校内の日程調整担当などにより明確に役割分担をして運営していく必要がある。

5 職場体験学習の実施状況

| 日程 | 参加生徒数 | 受入事業所 | 教育課程の位置づけ | 備考 |
|-----------------------|-------------------------|---|-----------|----|
| 9月10日 11日 (2日間) | 1年生6名 2年生0名 3年生4名 | 株式会社 株式会社 幸手市立吉田幼稚園 社会福祉法人 幸和会 桜楓苑 計 4事業所 | 特別活動 | |

事前指導

8月23日 職場体験学習に向けての心構え、服装等の指導

9月2日 自己紹介カードの作成

派遣先との打合せ

9月3日～6日 勤務時間・服装・持ち物・心構え・実習内容について

職場体験学習

9月10日(火)・11日(水) 2日間(8:30～16:00)

実習終了後、学校にて報告書の作成・自己評価

事後指導

まとめ・ホームページ作成

6 実習に参加した生徒の反応

(1)生徒の感想(一部)

- ・幼稚園に1日ただけで、疲れてしまったので、働いている先生はよくがんばっているなと思いました
- ・幼稚園の大変さ、つらさ等がよくわかりとても充実した2日間でした
- ・つらいこともあったけど、これからの高齢化社会に対応できるように将来に生かしたいと思った

- ・ お年よりの安全を常に考えていて、責任感のいる仕事だと思った
- ・ 僕も将来やりたいことを見つけ、技術を磨いていきたい
- ・ とにかく安全面に気を使うのに驚いた。仕事をしていく上で安全に作業することが一番大切だとわかった
- ・ 働いている人を見て、本当にその仕事をするという目的と意欲がある事がわかった
- ・ 仕事をするとは何か成果が残るのでよいと思った
- ・ 休憩時間が少ないことと、休憩と仕事の切り替えの速さに感心した

平成 14 年度 職場体験学習の様子



株式会社



株式会社



幸手市立吉田幼稚園



幸手市立吉田幼稚園



社会福祉法人 幸和会 桜楓苑



社会福祉法人 幸和会 桜楓苑

(2) 生徒への効果

生徒は、それぞれの実習先に応じて体験した仕事の重要性と、どの職場にも共通して働くことに対する責任を感じている。慣れないこともあって大変だったという言葉と同時にいい経験になったと、どの生徒も口にしていった。今回参加した生徒の多くは進学を希望しており、高校卒業後すぐの進路選択に直接結びつくわけではない部分も多いが、学校を離れての、そしてアルバイトとも違った形での就業体験は、望ましい勤労意欲を育て、生徒の将来においてよい「経験」となりうるということが強く感じられた。

おわりに

ホームルーム等で進路学習の一環としておこなう職業研究や学部・学科研究などを通して自分の将来の確固たる目標を見出せない者もいるが、体験学習がこした進路学習にも有効であることがわかった。こうした体験を多くの生徒が経験できるように、体験しなかった生徒もその内容を共有できるような形を考えていきたい。そのためには、受入先の開拓や実施時期の検討、指導体制などさらに整備・研究を重ねる必要がある。